

1. 園の教育方針

幼児の心身ともに健康な成長発達のために適切な環境を用意し、幼児期にふさわしい集団生活が展開されるよう配慮した幼児教育をめざしている。教職員との信頼関係に支えられた活動、直接体験、友だちとのかかわりを通じて、個々の幼児が情操豊かで、良き生活習慣や人間関係に向かう意欲や態度を培う保育に取り組む。本園ではめざす教育目標として次の3項目を掲げる。

1. 心身共に健康で情操豊かな子どもに育む。
2. 誰とでも手をつなぎあっている子どもに育む。
3. 人の話がしっかり聞ける子どもに育む。

2. 令和6年度、重点的に取り組んだ目標・計画と自己評価

評 価	S 十分達成されている A 達成されている B 取り組まれているが、成果が十分でない C 取組が不十分である
-----	---

目標・評価項目	取組み内容	取組み状況	評価
1, 教育・保育内容の充実 (1)	幼稚園型認定こども園として、幼稚園として取り組んできた内容に加え、3号園児（2歳児）、新2・3号園児など保育を必要とする園児の増加や、新しく導入される「こども誰でも通園制度」等に伴う、組織・体制の再構築に取り組み、教育・保育の原点を見失わず、さらなる充実を図る。	1号園児238名、2号園児20名、3号園児10名の268名。年少4クラス、年中3クラス、年長3クラス、満3歳1クラス、2歳児1クラスの12クラスの編成とした。 前半は感染症（コロナ・溶連菌・手足口病・アデノウイルス等）に罹患する園児・職員も多くみられたが、大きな流行にはならず、予定通りの保育が行えた。近年の猛暑の影響で外遊びが困難であるが、屋内の運動具の充実により対処している。 園庭のグラウンドとプールの改修工事を実施した。	A
(2)	教職員の信頼関係を築き、良好な人間関係の構築を大事にする。フリー教員と担任教員の学年団体制を強固にし、保育の援助指導面と管理面の分担と連携を図る。 要支援児についても、他機関との連携を強め、質の高い保育を目指していく。	カンファレンスを毎週簡潔に行うようにし、園児の状況を頻繁に伝えあうことで、園児についての情報を全教員で共有することができた。また、フリーと担任がうまく連携が取れるように配慮した。 支援を要する園児数は年々増加していて、「いちよう学園」、「八尾市こども総合支援センターほっぷ」等、専門の施設と連携を取り、要支援児それぞれについて訪問支援など詳細な指導を受けている。民間の療育施設に通う園児も増えており、それらの施設から来園されることも多くなり、複数の施設と情報交換を行っている。	A

<p>(3) ①指導内容の充実</p>	<p>音楽・絵画・体育・英語に引き続き力を入れると共に、従来の教育課程に専門講師の指導計画をスムーズに組み込み、より質の高い教育内容を目指していく。一人一人の園児の特性に留意しつつ、遊びの中から幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を育てるカリキュラムの改善に努める。</p>	<p>春の親子遠足と秋の遠足を実施した、お誕生会・泥んこ遊び・プールも通常の形で実施できた。運動会は酷暑を考慮して、例年より2週間日程を遅らせて、学年ごとに3日間に分けて開催した。音楽会も、保護者の要望に沿い、学年ごとに3日間、クラスごとの入れ替え制で行った。絵画展についても昨年同様、密にならないように、予め入場時間を決めて行った。普段から、運動・音楽・制作の活動をバランスよく行い、日常の保育が行事のための偏ったものにならないように配慮している。</p>	<p>A</p>
<p>②保育環境の充実</p>	<p>園庭の樹木・遊具の整備を行う。季節ごとに花の種蒔・植栽をおこない、自然教育の環境を整える。 蔵書・楽器・夏の暑さ対策と園児の運動能力向上のための設備の充実を図る。</p>	<p>今年度も園庭開放から新入園児の保育を開始し、スムーズに迎え入れることができた。植栽も随分成長し、園児たちはお花を見たり、かくれんぼをしたり、虫を探したり、どんぐりを拾ったり、思い思いに楽しんでいる。畑でジャガイモ・キュウリ・トマト・枝豆・サツマイモ・稲など様々な野菜を育てて収穫することが出来た。保護者会園芸委員の協力を得て、芋ほりを実施した。 真夏の暑さ対策で、日よけテントと室内用の運動具を購入した。 運動会用にストライダーを購入した。 グラウンドとプールの改修工事を実施した。</p>	<p>S</p>
<p>③預かり保育の充実</p>	<p>長時間の預かり保育利用のためのプログラムの充実化を図る。1号認定児についても、預かり保育・早朝・延長保育を利用しやすい体制の整備を図る。</p>	<p>感染症予防のため、1室の園児数を制限しなければならないが、新2号・新3号への補助などで希望者が増加しており、各学年の保育室も利用し、担任も当番制で手伝って、希望者の受け入れを行った。大規模修繕で、預かり保育用に保育室の改修も行う予定。</p>	<p>A</p>
<p>④食育に対する取り組み</p>	<p>1号認定児については給食設定は行わないため、保護者に対してお弁当づくりの意義を伝え、食育に関する必要な情報提供を行なう。</p>	<p>感染症予防のため、収穫した野菜を食べたり、会食は行っていないが、年長児が田植えをし、収穫できたお米で飯ごう炊さんを行った。自分で収穫した、枝豆・お芋・大根などを家庭に持ち帰り、家族で楽しんでいる。 今後も、給食・お弁当に関係なく、保護者に食育の情報提供を行っていく。</p>	<p>A</p>
<p>⑤徒歩通園の取り組み</p>	<p>バス通園をおこなわず、保護者には徒歩通園の意義を伝え、子どもたちの健康づくり・親子関係の育みを目指していく。</p>	<p>自転車通園が多いが、保護者には大阪府の条例や交通マナーを守って登園していただくよう繰り返しお手紙で啓発し、引き続き徒歩通園の意義を伝えていく。車での通園は禁止しているが、一部の保護者に近隣へ駐車しての通園が見られ、ルールを守ってもらうよう繰り返し伝えていく。 園庭工事中の駐輪については、保護者の協力を得て大きな問題もなく行えた。</p>	<p>A</p>

⑥教員の指導力の向上	園内外の研修の充実を図り、教員の指導力向上を図る。	<p>本年は対面式の研修も実施されるようになり、オンライン研修も含め、たくさんの研修機会を教員に提供できている。</p> <p>専門機関との連携の中で、担当指導員とのカンファレンスなどで得た、特別支援教育に関する知識や情報を、教員間で共有している。</p> <p>特別支援コーディネーターを配置し、専門的な研修に参加している。</p>	A
⑦小学校等との連携	卒園児が就学予定の地域小学校（主に6校）と連携を深め、合同研修への参加や情報交換の機会を増やす。地域の中学校・高校等の職業体験の受け入れを行う。	<p>地域の中学校・高校の職業体験や小学生との交流を実施した。幼保小連携研修などに参加し、就学前に幼稚園で取り組むべき課題について理解を深めた。例年の小学生の町探検に加え、今年は刑部小学校の2年生と年長児の交流会を行った。</p> <p>就学前に地域小学校への引き継ぎを早い時期から開始している。</p>	A
(4) 教職員の育成・評価・能力開発を図る	<p>定期的な個人面談・園内研修・自己評価を通じて、教職員の能力向上を促す。</p> <p>昨年導入のICTシステムの、出席簿・個人記録・指導要録などへの活用を進め、教職員の業務の改善を図る。</p>	<p>学期ごとに個人面談を行い、悩みや課題を聴取している。それぞれの個人行動目標シートに年度目標、学期目標を設定し、具体的な行動、振り返りを記録して、自己評価をすることによって、能力、資質の向上を図った。</p> <p>キャリアアップ研修の受講状況を把握し、各人の自覚を促した。</p> <p>教育実習、インターンシップを積極的に受け入れ、後進の指導にあたった。</p> <p>出席簿・個人記録・指導要録の作成等については、システムを利用したものと、紙ベースの物と並行して進めていて、無理なく、徐々に切り替えを行っている。</p>	A

2、園の施設、設備、遊具、行事などの総点検	<p>施設、園庭、設備、遊具などの安全を、常時定期的を確認し、少しでも危険が予測される場合には速やかに改善していく。又、令和7年度に予定している大規模修繕の準備を行う。照明のLED化を進める。</p> <p>ICTによる園児の登降園管理を定着させ、より正確なものとする。</p>	<p>施設、園庭、遊具の専門業者による遊具の安全点検を行った。全職員が常時、子どもの安全面で問題のある箇所について報告し、対応している。</p> <p>グラウンドとプールの改修工事を行った。</p> <p>大規模修繕のための調査を進めている。</p> <p>LED化については今後も進める。</p> <p>園内のICT化については、登降園システムによる登降園管理、アプリを使用している家庭からの連絡・園からのお知らせの配信は定着し、アンケート機能も活用できている。</p>	S
3、安全管理体制の整備、強化 (1)	<p>火災、災害などの発生に際して園児、教職員をはじめ園内の安全を確保するために、通報、安全確保、避難、保護などの方法、手段のマニュアルを改善し、徹底する。</p> <p>様々な場合を想定した防災訓練を毎月行う。非常用の水・食料の備蓄を行う。</p>	<p>学校安全委員を置き、最善の通報、安全確保、避難、保護などの方法、手段をマニュアルにし、さらに確認し合っている。災害時の様々な状況を想定して、毎月訓練と反省会を行っている。</p> <p>非常持ち出し用の備品を整備した。</p> <p>災害時用の水やビスケット等をローリングストックとして備蓄している。</p> <p>災害時用の備品（テント・備品収納ベンチ・防災頭巾等）を購入した。</p> <p>消防署の立ち入り検査でよい評価を頂き、市長表彰を受ける予定である。</p>	S
(2)	<p>不審者、侵入者などから園児をどう守るか、防御・連携体制を強化する。</p>	<p>監視カメラ、警備員による不審者対策を行っている。園内で2回の訓練の他、7月には八尾警察・八尾消防署に来ていただき、さすまたやAEDの使用方法の訓練を行った。</p> <p>保護者証の携帯の徹底に努めた。</p> <p>大阪府の園児向け防犯教室を実施した。</p> <p>八尾警察の依頼で、特殊詐欺被害にあわないためのパトカーの音声に年長児が協力した。</p> <p>110番の日のイベントに参加した。</p>	A
4、子育て支援の実施	<p>(1) キンダーカウンセラー事業として、専門家を招聘し、在園児であるなしに関わらず地域の子どもの発達に関する相談に応じていく。</p>	<p>毎月カウンセリングの日を設け、保護者だけでなく、地域の子育て世帯や教職員の相談にも応じてもらっている。</p>	A

	(2) 未就園児の親子登園（さくらんぼ組）を実施し、集団生活の体験、子育ての情報提供や、参加者間の交流の場の提供を行う。	引き続き感染症予防に注意して、未就園児親子登園（さくらんぼ組）を実施した。毎回 12 組程度の親子が参加されている。 特に夏休みのプール、人形劇の鑑賞が好評であった。	A
	(3) 絵本の貸し出し、読み聞かせ会、子育て相談を実施する。	毎月 2 回、在園児、卒園児、未就園児に図書室の絵本の貸し出しを行った。 保護者有志の絵本の読み聞かせ会は、感染症対策をして遊戯室で行っている。 主幹教諭による相談を水曜以外にも随時行い、保護者や園児の悩みに対応している。	A
	(4) 課外教室の充実を図る。	さくら英語学院、らいおんスポーツクラブ、学研みらいの課外教室も好評で、感染予防に留意しながら開催されている。	A
5、教職員の勤務、給与について	(1) 今年度より新規学卒教員の初任給を変更、給与体系を教職員の資格・職務能力に応じた体系に改定した。今後も時間外労働を抑制し、有給休暇の取得を促進する。	昨年に引き続き処遇改善に適切に対応している。 変形労働時間制を実施し、労働環境の改善と、時間外労働の削減に努めた。時間外労働については今年も減少しており、パート職員も含め、平均 5 日以上の有給休暇を取得した。 今年是新卒 2 名、中途採用 1 名の増員が出来、急な欠勤などへの対応もスムーズに行えた。	A
	(2) 土曜日・長期休暇中の開園について、保育担当教職員と教育担当教職員の負担の公平性に配慮する。	土曜日・長期休暇中は養成校の学生のアルバイト等を補助として活用し、保育担当と教育担当の教職員の公平性に配慮した。	A
6、園に対する保護者の満足度把握、情報共有及び情報公開	(1) 私学の独自性に配慮しつつ 子育て中の保護者が期待する幼稚園像を確認し、地域社会から求められる本園の将来ビジョンの策定を引き続き行なっていく。	学校評価の保護者アンケートだけでなく、保護者から直接意見を聞き、保護者が期待する幼稚園像を把握しつつ、自治体と密に情報交換しながら園の運営を行っている。登降園システムのアンケート機能を使い、行事についての意見を集約することが簡単にできた。保護者によって様々な考えがあるので、各々に対して、園の取り組みの説明に努めた。	A

	(2) 保護者と教育・保育状況の情報共有をしていく。	<p>全員お迎えに来られるので、降園時には、保護者にその日の保育状況を伝えるなどの対応が取りやすい。</p> <p>行事などの情報の発信に、一斉メールを活用した。保育参観・運動参観・音楽参観などを実施し、普段の園児の姿を見てもらう機会を増やした。</p> <p>保護者に毎日の園児の健康状態をアプリで報告することをお願いしている。</p>	A
	(3) 本園ウェブサイトにより、自己評価及び会計情報を公開していく。ホームページで園の様子や子育て情報の発信に努める。	<p>本園の自己評価・会計情報をウェブサイト公開した。</p> <p>園での行事などのブログ発信に努めた。</p>	A
7、インフルエンザ等の感染症の感染防止対策と熱中症の予防に努める。	(1) 園内清掃・消毒の体制を整える	<p>文部科学省・厚生労働省・大阪府・八尾市からの指示に従い、感染予防の為、適切な清掃・消毒を行っている。</p> <p>衛生面の強化の為、ごみの収集を週に3回に増やして行っている。</p>	A
	(2) 行事の実施や実施内容・方法について検討する	<p>遠足については、春は海遊館、ビックバン、秋はニフレル、カップ座、ドリーム21にバスで実施した。どちらもバスの消毒を徹底し、施設の消毒状況も確認済み。2歳児・満3歳児は大阪城公園へ親子遠足を実施した。</p> <p>駐車場の問題で大型バスが使用できなくなり、来年度の親子遠足については、実施方法の検討を行っている。</p> <p>運動会は各学年ごとに園庭で3日間、入場者は保護者2名と申請のあった方に制限して行った。</p> <p>音楽会は各学年ごとに遊戯室で3日間、各クラスごとに時間を変えて、入れ替え制で行った。</p> <p>絵画展は昨年同様、土曜日に各クラスで展示し、少人数ずつ時間を決めて一方通行にする方法で実施した。</p> <p>毎月の誕生会・クリスマス会・人形劇等は、全学年一緒に行うことができた。</p>	A

	(3) 家庭協力要請時の連絡・保育方法 (Web 配信等) を充実させる。	今年度も全園での休園は行わなかったが、保護者への家庭保育の協力を依頼しており、欠席している園児には担任からの定期的な電話での状況把握を行った。	A
--	---------------------------------------	---	---

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果及び今後の課題

A	<p>前半は、コロナ、アデノウィルス、プール熱、インフルエンザなどが流行し、家庭保育を要請するクラスもあったが、行事については、お誕生会、七夕会、泥んこ遊び、プール、クリスマス会などはコロナ以前の実施方法に戻して、運動会、音楽会、絵画展などは感染予防の為変更した方法で参加者を増やして実施して、概ね目標や計画は達成する事が出来た。</p> <p>昨年に引き続き、保育室の消毒・換気に努め、暑さ対策のため、屋内での運動用具の充実に努めた。グラウンドとプールの改修工事を実施した。安全・安心のため登降園管理システムを昨年度より導入し、園児の登降園の管理、保護者へのお知らせをスムーズに行えるようになった。また、アンケート機能を活用して、保護者のニーズの把握に努めた。来年度は出席簿、個人記録、指導要録などの作成機能も活用して、教員の業務改善を進めていく。課外教室・絵本の貸し出し・読み聞かせ・未就園児親子登園さくらんぼ組なども、感染防止対策をとりながら実施できた。要支援児については、八尾市こども総合支援センターと密接に情報交換出来る体制が整ったので、民間施設とも協力して取り組んでいる。保護者の要望に応え、来年度3号園児を10名から12名に増員、2号園児も各学年12名ずつに増員していく予定である。新2号の増加による預かり保育の希望者の増加に対応できるような預かり保育の仕組みを考え、実施予定としている。</p>
---	---

4. 学校関係者評価委員会の意見

<p>本年度の自己評価結果はS段階3項目(昨年度4項目)、A段階22項目(昨年度21項目)及び総合的な評価結果はA段階であった。保護者アンケートについては、本年度の回答率は88%(昨年度87%)。アンケートの各項目の肯定的回答の平均が97%(昨年度96%)であった。委員会においては園側からの自己評価に対する説明・報告やアンケートの結果に基づいて評価結果を判断した。</p> <p>まず、S段階と評価された3つの項目について取組み状況についてまとめる。</p> <p>『1. (3) ②保育環境の充実』についてSと評価されたところは、本年度も園庭での活動や畑でのジャガイモやキュウリなど様々な野菜の栽培が行われた事。保護者会園芸委員さんのご協力を得て実施された芋ほりでは、おいしい芋を参加された家庭にも届けることができた事。併せて、真夏の暑さ対策で日よけテント(3張り)・室内用の運動具を新たに購入した事。運動会用のスライダー(5台)を購入した事。グラウンドやプールの改修に取り組んでいる事。引き続き熱中症対策や感染症対策等園児への安全面に配慮しつつ、恵まれた自然環境などを活用した保育環境の充実に取り組んでほしい。</p> <p>『2. (1) 園の施設、設備、遊具、行事などの総点検』についてSと評価されたところは、グラウンドやプールの改修に取り組んでいる事。業務等のICT化の一環として昨年度から導入された総合保育業務支援システムにおける登降園管理システムのアプリを活用した出欠等の連絡や園からお知らせの配信が定着した事。アンケート機能を活用して保護者の思いを把握できた事。次年度以降も登降園管理</p>

や教務事務等に導入されたシステムが活用され、教職員の職務改善にも繋げるとともに、保護者の要望に応えられるような教育・保育活動に取り組んでほしい。

『3. (1) 火災、災害などの発生などに対する安全確保』についてSと評価されたところは、例年の取組みに加えて、防火対策に対する園の取組みを評価していただき、八尾市から優良防火対策施設として市長表賞を受賞した事。保護者アンケートの17番（危機管理意識の向上）の項目の肯定的な意見が100%であった事。引き続き、園児自らが緊急時に適切な行動ができるよう訓練を続けるとともに、全教職員が防災等に関する理解を深め、園児たちの安全確保に取り組んでほしい。

次に、総合的な評価結果についてまとめる。

委員会では、園児たちの活動状況を理解するために、6月にはお誕生会、10月には縄跳び運動の園児たちの様子を見学した。また、本年2月にはグラウンドやプールの改修の状況も見学した。

行事の実施に当たっては、暑さ対策で2週間程度開催時期を遅れて運動会を開催した事。感染症対策を踏まえて学年ごとクラスごとの音楽会の実施した事。年間を通して行事の準備をするなど園児への指導の工夫・改善にも取り組まれたとの事。概ね目標や計画を達成された事。また、来年度は保護者の要望に応じて、2号園児や3号園児などの定員を増加した事（3号園児は10名から12名。2号園児は各学年12名増）。保護者アンケートにおける肯定的回答率は、25項目中、項目16（情報公開）87%と項目21（保護者会活動・保護者同士の交流）85%の2項目が80%台であったが、他の項目は90%以上の結果であった。

以上を踏まえ、本委員会としては協議の結果、各項目の自己評価結果や総合的な評価結果については『妥当』と判断した。

これからも園の教育方針に基づき、安心・安全な教育・保育活動が実施できるよう教職員間で議論を重ねるとともに、インフルエンザやコロナ対策等感染症には十分注意を払いながら、行事の見直し、消毒・清掃の徹底などについて様々な工夫を重ね教育・保育活動を行ってほしい。

最後に、引き続き感染症対策等を徹底するとともに、すべての園児や保護者等の要望に応える教育・保育活動にできるだけ取り組んでいただきたい。平成7年度実施予定の大規模修繕、総合保育業務支援システムの教務関係への更なる活用、配慮を要する園児への指導など様々な課題がある。

全教職員の皆様が、園児にとって、保護者にとって、そして地域社会にとって何が大切かを改めて熟考していただくとともに本園の教育目標の達成をめざした教育・保育活動に尽力されることを切に願っている。

5. 財務状況

公認会計士による年3回の監査において、より安定した経営に向かう努力をしていること、財務状態は適正であることについて評価を受けている。

令和6年度 清友幼稚園評価アンケート結果

先日は、幼稚園評価自己診断に関するアンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
 今回、235名の保護者の皆様から回答を頂戴しました。保護者の皆様からの評価を真摯に受けとめ、園の経営や指導法の見直しにつなげていきたいと考えております。幼稚園の教育方針や教育内容をご理解いただいた上で、その取組を評価していただき、その結果を公表し幼稚園を開くことで、さらなる教育充実を目指してまいります。今後とも教育活動推進のためにご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

		そう思う おもね思う	やや思う	あまり思わない	そう思わない
1	子どもは幼稚園に喜んで通園している	190		43	2
2	教育方針や教育内容・活動についてはよく分かる	192		41	3
3	園は一人一人の子どもをよく理解し、個性に応じた適切な援助に努めている	173		60	3
4	園は子どもの自主性や意欲を大切にしようと努めている	186		47	3
5	園は子どもたちが基本的な生活習慣が身につくように努めている	211		23	3
6	園は子どもたちが様々な遊びや活動を通して、集中して話を聞く態度を育てている	203		31	3
7	園は子どもたちが自分の思いが表現できるように努めている	175		53	6
8	園は子供たちが自然とのふれあい、直接体験を通して、命の大切さに気づくように育てている	176		51	8
9	園は子どもたちが友達の思いに気づき、互いに認め合えるように育てている	182		49	4
10	園は集団でのきまりを守る態度を育てている	204		29	3
11	園は小・中学校、高校、地域の人々との交流を通して人とかわる力を育てている	154		65	16
12	子どもは園内外の行事に喜んで参加している	208		25	3
13	参観、懇談会、様々な行事で、子どもの様子や育ちがよくわかる	175		57	3
14	園内外は清掃が行き届き、衛生的な環境作りに努めている	217		18	3
15	園は子育ての参考になる情報の提供に努めている	125		96	14
16	園はホームページなどで情報公開することに積極的である	104		100	28
17	園は安全管理に努め、危機管理意識向上に努めている	199		35	3
18	園は個人情報保護に努めている	191		43	3
19	園から出す手紙はよく分かる	167		58	9
20	子どものことを園や教員に相談しやすい	169		59	6
21	保護者会活動が活発で保護者どうしの交流の場になっている	95		105	30
22	園は担任だけでなく、園全体で子どもの保育に取り組もうと努めている	196		37	3
23	地域の幼稚園として子育て支援に努めている	144		81	8
24	家庭での基本的な生活習慣を身につけることができた	185		45	4
25	家庭で子どもとコミュニケーションを図ることができた	205		28	3